

平成29年度

シラバス

青翔開智高等学校

第二学年

教科名		科目名	単位数	対象学年	履修形態	
国語		現代文B	3	高校2年	必修	
科目の目標		評論、小説の読解によって読解の技術および読解に必要な知識を身につけること。 それによって世界を認識する視点を獲得すること。 また、ディベート等の表現活動によって情報収集から発表までのプロセスを身につけること。				
学習内容の概要		評論の読解ではその技術だけでなく重要テーマについての知識も同時に身につける。 小説の読解では文学研究の手法で本文理解だけにとどまらない鑑賞方法を学習する。 漢字もしくは語句、文学史についての学習にも取り組むまた、月1回程度表現活動を実施、表現および教科書外のテーマについても学習する。 (人間探究コースでは、演習と文学史の時間を多くとる予定。)				
評価の観点		関心・意欲・態度 各言語活動に積極的に参加しているか。	話す・聞く能力 目的や場に応じた的確に聞き取り、自分の意見をまとめ深めることができるか。	書く能力 必要な情報を用い目的に応じた文章を書き、自分の考えを深めることができるか。	読む能力 近代以降の文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み取ることができるか。	知識・理解 読解に必要な知識を習得することができているか。
評価の方法		以下の内容を総合的に判断して評価する。 定期考査、平常点(小テスト、提出物、授業態度)				
教科書、教材		精選現代文(大修館書店)、品詞別頻出漢字マスター300(尚文出版)、ピジュアルカラー国語便覧(大修館書店)、国語辞典(指定なし)、漢和辞典(指定なし)、プリント				
授業形態		一斉				
年間学習計画						
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等	
1学期	4	ガイダンス		1		
		ディベート	テーマは生徒が設定する 学校図書館と連携する	4		
	5	「ミロのヴィーナス」/演習問題	筆者の意見を読み取る	8	・社会の問題点や変化について自分の考えを持つことができたか ・自己の考えを適切に表現できたか	
	6	「システムとしてのセルフサービス」	日常的なテーマから、論考の手法を読み取る	4		
		作文	感想文・体験記 学校図書館と連携する	6	・自己の思いを適切に表現できたか	
	7	「山月記」 「山椒魚」 文学史	自分と「自己」との関係について考察する 寓話的な話のおもしろさを味わう 学校図書館と連携する	20	・登場人物の心理を読み取ることができたか ・小説の鑑賞力を養うことができたか	
2学期	8					
	9	「科学の現在を問う」	科学のあり方について考察する	8	・文章の構成を読み取ることができたか ・筆者の主張を読み取ることができたか	
	10	演習問題	評論の読解方法を学ぶ 小説の読解方法を学ぶ	20	・評論の読解力、小説の鑑賞力を養うことができたか	
	11					
	12	「人を指す言葉 -自称詞・対称詞・他称詞」	日本語に対する興味を深める	8	・論旨を的確に捉え、その論理性を考察することができたか	
3学期		演習問題	マーク問題の読解方法を学ぶ	15	・読解の手がかりを意識して解くことができたか	
	1	『である』ことと『する』こと	日本の「近代」のあり方について考察する	4	・文章の構成や、段落相互の関係性を読み取ることができたか	
	2				文学史	近現代のなかで時代は生徒が設定する 学校図書館と連携する
	3	「こころ」	描かれた人物・情景・心情などを読み取る	8	・比喩表現や情景描写による暗示などを読み味わうことができたか	

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態	
国語	古典B	3	高校2年	必修	
科目の目標	古文と漢文を読解する技術および必要な知識を身につける。 ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深める。				
学習内容の概要	古文は、講義・演習・小テストによって、基本的な知識の定着を図る。同時に、難解な演習問題に取り組むことによって知識のアウトプットをはかるとともに、文学史も学習する。なお、随筆の通読は定期考査および長期休業ごとの自学課題とする。漢文は、講義・演習・小テストによって、入試問題の読解に向けた知識の定着を図る。				
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	各言語活動に積極的に参加し、伝統や文化への関心を深めようとしているか。	目的や場に応じた的確に聞き取り、自分の意見をまとめ深めることができるか。	相手や目的に応じた適切な文章を書くことができるか。	思想や感情を的確に読み取り、その価値を考察できているか。	読解に必要な知識を習得することができるか。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 定期考査、平常点(小テスト、提出物、授業態度)				
教科書、教材	精選古典B(大修館書店)、体系古典文法(数研出版)、完全征服合格古文単語380(桐原書店)、方丈記(角川ソフィア文庫)、枕草子(角川ソフィア文庫)、新明説漢文(尚文出版)、ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)、古語辞典(指定なし)、漢和辞典(指定なし)				
授業形態	一斉				

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1学期	4	ガイダンス		1	・知識を理解、定着することができたか ・知識を蓄積することができたか ・蓄積した知識を活用できたか ・古典の内容や表現の特色を理解して味わい、作品の価値について考察できたか ・古典に表れた人間の生き方や考え方について、文章中の表現を根拠に話し合うことができたか
		「宇治拾遺物語」		5	
	5	「十訓抄」		6	
		演習問題	語の識別 古典常識の復習および定着の確認	6	
	6	「伊勢物語」		17	
	7				
2学期	8	故事成語	再読文字や読解に必要な疑問、使役、受身を中心とした句法を習得する	9	
		史伝	故事成語の由来と意味を理解する	10	
	10	「土佐日記」		10	
	11	演習問題	敬語の用法を習得する 文学史	6	
		「源氏物語」		10	
	12	「論語」		12	
3学期	1				
	2	漢詩	孔子の思想および漢文常識を理解する 詩の形式と基本的知識を習得する	9	
		演習問題		6	
	3	「大鏡」／演習問題	入試対策	10	

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
地理・歴史	世界史B	4	人間探究コース2年	必修

科目の目標	歴史(学)的思考を身につけながら、世界の歴史に関する知識と教養を養う。歴史と経済、歴史と文物との関連、及び世界史と日本史、世界史と地理、世界史と現代世界との接点を理解する。			
学習内容の概要	古代から現代にいたる世界の歴史を学ぶ。古代から中世、中世から近代という時間軸を用いてまず「地域史」を講義する。その際、国家の統治機構や経済的文化的交流史に焦点をあて、その後、地域を横断する「時代史」を講義して総括する。なお現代史においては、特にグローバル化によって地域の相互作用が大きいため、「現代史」として地域横断的な授業を行う。問題演習も頻繁に行う。			
評価の観点	意欲・態度	歴史に対する感性・理解	地域に対する感性・理解	人間に対する感性・理解
	学習内容への研究に意欲をもつこと	発生した事象の歴史的意義に対する理解度	発生した事象同士の相互関連性への理解度	歴史に登場する人物と現代人との共通点・相違点への理解度
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 定期考査、授業態度。			
教科書・教材等	最新世界史図説タペストリー(帝国書院)			
授業形態	一斉			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	西アジア世界の形成	古代オリエントとギリシア・ローマ世界	6	古代国家の成立過程と統治機構を理解すること。
	5	東アジア世界の成長	古代・中世の中国	9	東アジア世界の「華夷秩序」と統治機構を理解すること。
	6	イスラーム世界の出現と発展	古代・中世のイスラーム世界	12	イスラームに対する通俗的理解を排して、偏見なく宗教現象を捉え、また統治機構と交流史を理解すること。
	7	ヨーロッパ世界の形成と発展	古代・中世のヨーロッパ	9	王権と教皇権、世俗と宗教の間の依存・対立関係を深く理解すること。
	8				
2	9	ヨーロッパ世界と結びつく世界	大航海時代、宗教改革、絶対王政	12	グローバル化の端緒と、その後続く植民地主義の危険性を理解すること。富の蓄積と消費過程を理解すること。
	10	イスラーム世界の拡大と安定	近世のイスラーム世界と中国	12	欧州よりもアジアが経済的に繁栄していたという事実、及びなぜそれが可能となったのかを理解すること。
	11	欧米近代社会の形成	ヨーロッパの市民革命と復古主義	12	人権の誕生した時代とその意義、及びその経済的政治的背景を理解すること。
	12	欧米諸国の世界進出	帝国主義	9	植民地主義が資本主義と結びつき、暴力的な帝国主義が展開したという事実を理解すること。
3	1	2つの世界大戦	現代の世界史①	9	2つの大戦がなぜ発生したのかを、経済的政治的側面から捉え理解すること。
	2	戦後世界の流れと各地域の動向	現代の世界史②	15	戦後の世界政治経済の展開を理解し、近年高まる暴力現象や経済的格差がどのように発生してきたのか、また古代中世のそれと現代のそれとでいかなる相違点があるのかを理解すること。
	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
地歴	日本史B	4	高校2年	選択必修

科目の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察する。			
学習内容の概要	2年次は原始・古代～近世までの歴史を学習し、日本の移り変わり、世界の流れと関連付けながら多面的に考察していく。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	日本・世界の歴史に関する関心を高め、意欲的に追求し、社会を構成する一員として自覚と責任を考えることができる。	歴史的事象から課題を見だし、意義や特色、相互の関連性を多面的に考察し、表現することができる。	日本・世界の歴史に関する諸資料から有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	歴史的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、知識を身につけ、活用することができる。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 年3回の定期考査(80%) 小テスト(20%) →授業の最初に小テストを行い80%以上の得点により平常点1点。これを20回行う。			
教科書・教材等	詳細日本史(山川出版)			
授業形態	選択			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成	①文化のはじまり～③古墳とヤマト政権 ①飛鳥の朝廷～⑤平安王朝の形成	16	・人類文化の発生から弥生文化までの社会の変遷を理解する。 ・首長の出現から統一国家、ヤマト政権、律令国家成立までの流れを理解する。
	5			14	
	6	第3章 貴族政治と国風文化 第4章 中世社会の成立	①摂関政治～③地方政治の展開と文化 ①院政と平氏の台頭～⑤鎌倉文化	20	・藤原氏の摂関政治、武士の成長、院政期、鎌倉幕府の政治・経済・社会を理解させる。 ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化～鎌倉文化までを理解する。
	7			20	
	8			20	
2	9	第5章 武家社会の成長 第6章 幕藩体制の確立	①室町幕府の成立～④戦国大名の登場 ①豊織政権～④幕藩社会の構造	20	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定までの流れを理解する。 ・武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ・織田信長、豊臣秀吉の全国統一の過程と政策を理解する。
	10			20	
	11			20	
	12	第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	①幕政の安定～③元禄文化 ①幕政の改革～④化政文化	15	・江戸幕府の成立から文治政治への転換期における平和と秩序の確立を理解する。 ・幕藩体制の動揺の中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義を理解させる。 ・元禄、化政文化における重要人物、事項を正しく理解する。
3	1			15	
	2			15	
	3				

教科名		科目名	単位数	対象学年	履修形態
地理・歴史		地理B	4	高校2年	選択必修
科目の目標		地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚と資質を養う。			
学習内容の概要		現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	作業的、体験的学習を通して地理的事象を考察するための技能を理解する。	現代世界の地理的諸事象を系統地理的に考察し、諸課題にて地球的視野から理解できる。	さまざまな地図の活用、統計・画像・文献などの地理情報の収集・選択・処理などを通して空間的に広がる諸事象の規則性や傾向性を考察している。	世界の諸地域の特色や課題を多角的・多面的に考察できる。	
評価の方法		以下の内容を総合的に判断して評価する。 定期考査、授業態度			
教科書・教材等		地理B(東京書籍)			
授業形態		一斉			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1. 世界の地形	32	・生活環境の基盤となる地形の重要性、地球表面の起伏の状態とその形成要因について理解する。 ・気候環境を形成する特徴の循環についての理解を前提に、地域によって生じる気候の違いとその要因について理解する。
	2. 世界の気候				
	5	3. 世界の環境問題			
	6	さまざまな地図と地理的技能 第1章 地理情報と地図	1. さまざまな世界地図 地形図 2. 地域調査	20	・地形図のルールと読図方法を身につける。 ・景観写真や地図から地域の特性を捉える方法を身につける。
2	7	第2章 資源、産業	1. エネルギーと鉱山資源産業の立地と変容	24	・エネルギーの重要性、需要の高まりをより生じる問題点について理解を深める。 ・農業立地の成立要因について自然、社会、市場との距離、経済水準、国家政策の側面から理解を求める。 ・工業立地の条件がどのように類型化されるのか理解を深めるとともに、立地の変化要因とそれによって生じる問題点について考える。
	2. 農業の立地と農業地域の変容				
	8	3. 工業の立地と工業地域の変容			
	9	第3章 人口、都市・村落	1. 人口	16	・世界の人口分布と人口推移の現状について地球視野から大観する。また、都市の分布の特徴を把握するとともに、その発達や大都市圏の形成過程について多面的に理解を深める。
	2. 都市・村落				
	10	第4章 生活文化、民族・宗教	1. 生活文化	20	・文化についての定義を踏まえた上で、文化の差異と融合、各地域における自然環境との関係によって多様性がもたらされることを理解する。 ・民族についての定義を踏まえた上で、国民国家やエスニシティとの関係性について理解を深める。 ・世界各地で勃発している民族紛争の社会的背景について理解を深める。
	11		2. 民族・言語・宗教		
	12	3. 民族問題・言語問題			
3		現代世界の地誌的考察	1. 地域区分の方法と意義	12	・地域の概念についての定義を踏まえた上で、さまざまな指標によって地域を区分することの意義について理解を深める。
	1	第1章 現代世界の諸地域	1. 中国 2. 日本・韓国 3. 東南アジア 4. アジア 5. 西アジア・北アフリカ 6. サハラ以南アフリカ 7. ヨーロッパ 8. ロシアとその周辺諸国 9. 北アメリカ 10. 中央・南アメリカ 11. オーストラリア	10	・各地域の概要についての理解を深める。
	2	第2章 現代世界の諸地域			
	3	第3章 現代世界と日本			

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
数学	数学Ⅱ	4	自然探究コース2年	必修

科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習内容の概要	三角関数、指数関数・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用する。複素数と方程式では、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解く。図形と方程式では、座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに事象に活用する。微分法・積分法では、その考えについて理解するとともに、事象の考察に活用できるようにする。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	各単元における考え方や体系に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的な考えに基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、各単元における数学的な見方や考え方を身に付ける。	各単元において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	各単元における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・課題 ・授業評価			
教科書・教材等	数学Ⅱ（数研出版）、4STEP数学Ⅱ+B（数研出版）、チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B（数研出版）			
授業形態	一斉			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	複素数と方程式	・複素数と2次方程式の解 ・高次方程式	16	方程式の解を複素数まで拡張し、さまざまな方程式の解を考察することができる。
	5	三角関数	・三角関数 ・加法定理	16	三角関数を含む方程式・不等式を解いたり、三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めたりすることができる。
	6				
	7	指数関数と対数関数	・指数関数 ・対数関数	20	指数方程式・不等式や対数方程式・不等式を解いたり、指数関数・対数関数を含む関数の最大値・最小値を求めたりすることができる。
2	9	図形と方程式	・点と直線 ・円 ・軌跡と領域	18	図形の性質や関係性を数学的に表現することができる。
	10	微分法と積分法	・微分係数と導関数 ・関数の値と変化 ・積分法	40	微分法を利用して、関数の特徴や方程式・不等式についてのさまざまな事象を正確に捉えることができる。 積分法を利用して、直線や曲線で囲まれた部分の図形を求めることができる。
	11				
	12				
3	1	関数(数学Ⅲ)	・分数関数と無理関数 ・逆関数と合成関数	14	分数関数・無理関数および逆関数と合成関数を学び、関数概念について理解できている。
	2	極限(数学Ⅲ)	・数列の極限 ・関数の極限	36	微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できる。
	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
数学	数学B	3	高校2年	必修

科目の目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習内容の概要	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を理解するとともに、事象の考察に活用する。 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用する。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。	事象を数学的に考察し表現したり、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、各単元における数学的な見方や考え方を身に付ける。	ベクトル、数列において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル、数列における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査　・課題　・授業評価			
教科書・教材等	数学B(数研出版)、4STEP数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式 基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)			
授業形態	一斉			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	数列	数列 等差数列とその和 等比数列とその和 和の記号Σ 階差数列 いろいろな数列 漸化式と数学的帰納法	27	数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察する。また、その規則性を活用して数列の和を求める。
	5				
	6				
	7	平面上のベクトル	位置ベクトル ベクトルと図形 ベクトル方程式	12	ベクトルを用いて図形の性質を証明したり、図形について考察したりする。
	8	空間のベクトル	空間の座標 空間のベクトル ベクトルの成分 位置ベクトル ベクトルと図形 座標空間における図形	27	平面ベクトルの概念を空間へ拡張し、立体の性質を証明したり、考察したりする。
2	9				
	10				
	11	入試問題演習 ベクトル		21	
	12				
3	1	入試問題演習 数列	大学入試センター試験や大学個別試験などの問題を題材にし、ベクトルや数列を活用してさまざまな事象を数学的に考察・表現・処理する。	15	適宜、各単元の基本概念を振り返りながら進める。
	2				
	3	入試問題演習		3	

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
理科	物理基礎	2	自然探究コース2年	選択

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
学習内容の概要	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
	物理学と日常生活との関連についての重要性に気付かせ、身近な物理現象やエネルギーへの関心を高める	物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を育てる	様々な探究の過程を通して科学の方法を習得させ、物理学的に探究する能力と態度を育てる	探究活動などの実践を通して知識を活用できる習慣を身につける
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・提出物 ・授業態度			
教科書・教材等	物理基礎(啓林館)、物理(啓林館)、プログレス物理基礎(第一学習社) センサー物理基礎+物理(啓林館)			
授業形態	一斉授業および4名程度でのグループ観察・実験を行う。			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	物体の運動	物理量の測定と扱い方 運動の表し方・直線運動の加速度	12	運動を表すときに共通に用いられる基本的な考え方や方法を理解する。
	5	力と運動 仕事とエネルギー	様々な力・力のつり合い・運動の法則 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	14	物体の運動を力の働きと関連付けて、基本的な概念や法則を見いださせる。
	6	熱とエネルギー	熱と温度・熱の利用	18	物体を構成する原子や分子の熱運動と温度の関係を理解する。
	7	波とエネルギー	波の性質・音と振動	12	音に限らず身の回りには多くの波動現象が存在することに気付かせ、波の現象についての基本的な性質や表し方を理解する。
2	8	電気とエネルギー エネルギーとその利用 物理学が拓く世界	※図書利用 物質と電気抵抗・電気の利用 エネルギーとその利用・物理学が拓く世界	14	物質により抵抗率が異なること及び日常生活での交流の利用などを理解する。
	9				
	10	-	-	-	-
	11				
	12				
3	1	-	-	-	-
	2				
	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
理科	物理	2	自然探究コース2年	選択
科目の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習内容の概要	剛体のつり合い、運動量原理、様々な運動、気体の状態変化、正弦波の扱い、ドップラー効果、レンズ、光の干渉と回折について理解を深める。これらの物理現象を通じてその奥に潜んでいる物理法則について深く考察させたい。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
	物理学と日常生活との関連についての重要性に気付かせ、身近な物理現象やエネルギーへの関心を高める。	物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を育てる。	様々な探究の過程を通して科学の方法を習得させ、物理学的に探究する能力と態度を育てる。	探究活動などの実践を通して知識を活用できる習慣を身につける。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・提出物 ・授業態度			
教科書・教材等	物理(啓林館)、センサー物理基礎＋物理(啓林館)			
授業形態	一斉授業および4名程度でのグループ観察・実験を行う。			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	-	-	-	-
	5				
	6				
	7				
2	8	剛体 運動量の保存 円運動と万有引力	剛体のつり合い 運動量と力積・運動量の保存はね返り係数 ※図書利用 円運動・単振動・惑星の運動・万有引力	4 12 20	大きさのある物体のつり合いを理解する。 物体が衝突や分裂をする際の運動量、力積、運動量の保存などを理解する。 円運動万有引力、単振動など物体に働く力の大きさや向きが一定でない運動について、それらの規則性を理解する。
	9				
	10				
	11				
	12				
3	1	気体のエネルギーと状態変化	気体の法則・気体分子の運動・気体の状態変化	12	気体について成り立つ法則、微視的な立場から見た物質の熱的な性質及び気体についての熱力学第一法則を理解する。
	2	波	正弦波・波の伝わり方・音の伝わり方 音のドップラー効果・光の性質・レンズ 光の干渉と回折	22	水面波、音や光などの波動現象を観察、実験を通して調べ、波の伝わり方や干渉、回折などについて理解する。
	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
理科	化学	4	自然探究コース2年	必修

科目の目標	化学の基本的な概念や原理・法則を理解すること。習得した知識・原理・法則を使いこなし、設問に対する適切な解を導くこと。科学的思考力および好奇心を伸ばし、主体的に自然を探究する能力と態度を高め、目的をもとに課題を科学的に分析・解決する能力を養うこと。			
学習内容の概要	物質の状態、物質の変化、無機物質、有機化合物、天然有機化合物、合成高分子化合物について理解する。 各器具の取り扱いを、実験を通して学び、自らの目的に応じて必要なものが適切に扱えるようにする。 発展的な内容を多く取り入れ、原理・法則が発見された経緯や技術の応用を理解する。			
評価の観点	関心・意欲・態度	判断・思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解
	化学の事物・現象に関心・探究心をもち、意欲的に解決する態度を身につけようとする。	化学的な事物・現象に問題を見だし、事象を科学的に考え、判断できる。	化学の事象・現象を科学的に探究する方法を身につけ、過程や結果を的確に表現できる。	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身につけている。
評価の方法	以下の事項を総合的に判断する ・定期考査 ・実験の実技およびレポート			
教科書・教材等	数研出版「104・数研・化学/306 化学」 その他独自教材			
授業形態	一斉授業および4名程度でのグループ観察・実験を行う。			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	第1編 物質の状態	ガイダンス	1	化学基礎の内容を復習した上で、「物質の状態」についての知識と法則を習得する。習得した知識・法則を活用し、数学的に処理して問いに対する解を導く。
	5		第1章 粒子の結合と結晶の構造 第2章 物質の三態と状態変化 第3章 気体 第4章 溶液	20	
	6	第2編 物質の変化	第1章 化学反応とエネルギー 第2章 電池と電気分解 第3章 化学反応の速さと仕組み 第4章 化学平衡	25	
	7				
2	8	第3編 無機物質	(無機化学工業, 工業的製法) 第1章 非金属元素 第2章 金属元素(I) 第3章 金属元素(II)	20	化学反応式を正確にたてられるか確認する。「第1・2章」では断片的な知識の複合による解に至るまでの流れを理解し、「第3・4章」では「平衡」を理解して問いに対する解を導く手法を学ぶ。 非金属元素においては、単体・化合物の性質・製法を重点的に学習する。金属元素では、単体・化合物の性質・製法の学習に加え、「系統分離」を確実に習得する。
	9				
	10	第4編 有機化合物	第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連物質 第4章 芳香族化合物	30	
	11				
3	12				
	1	第5編 天然物化合物	第1章 天然有機化合物 第2章 天然高分子化合物	15	天然に存在する有機化合物について低分子の化合物(単量体)の特徴を学習し、次いで天然高分子化合物の特徴を学ぶ。
	2	第6編 合成高分子化合物	第1章 高分子化合物の性質 第2章 合成高分子化合物	15	高分子化合物の特徴、結合および重合の種類を学習する。各種合成高分子の構造・特徴を学習し、廃棄・再利用についても学ぶ。 受験問題に対応できる力を身につける。
	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
理科	生物基礎	2	自然探究コース2年	選択

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を養う。合わせて、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。			
学習内容の概要	「生物と遺伝子」、「生物の体内環境の維持」、「生物の多様性と生態系」の学習により、共通性の土台となるDNA、ヒトを中心とした動物の生理、生物の多様性に注目した生態系など、ミクロレベルからマクロレベルまでの領域を学ぶ。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
	生物や生物現象が日常生活や社会と深い関わりがあることに関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとする。	生物や生物現象に関する科学的な見方や考え方を身につけようとする。	生物や生物現象の中から問題を見だし、目的意識をもって観察・実験を行うことで、科学の方法を習得しようとする。	観察・実験などを通して生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しようとする。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 定期考査、提出物、授業態度、活動への取り組み状況。			
教科書・教材等	第一学習社『高等学校 改訂 生物基礎』 第一学習社『セミナー 生物基礎＋生物』			
授業形態	講義、3～4名のグループワーク、4～5名のグループで実験・観察			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	生物の特徴	生物の多様性と共通性 細胞とエネルギー	12	生物は多様でありながら共通性をもっていること、また生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを理解する。
	5	遺伝子とそのはたらき	遺伝子の本体・遺伝情報の複製と分配 遺伝情報とタンパク質の合成	12	DNAの構造と機能について理解する。また、その情報に基づいてタンパク質合成が行われていることを理解する。
	6	生物の体内環境	体液とそのはたらき 体内環境の維持のしくみ・生体防御	20	生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解する。また、免疫の仕組みについて理解する。
	7	植生の多様性と分布	植生と遷移 バイオームとその分布	12	様々な植生と遷移、気候を繁栄したパイオームの成立について理解する。
	8	生態系とその保全	生態系 生態系のバランスと保全	14	生態系における物質のとともにエネルギーが移動することを理解する。生態系のバランスについて理解し、保全の重要性について認識する。
2	9				
	10	－	－	－	－
	11				
	12				
3	1	－	－	－	－
	2				
	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
理科	生物	2	自然探究コース2年	選択

科目の目標	生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。			
学習内容の概要	「生命現象と物質」、「生殖と発生」について理解する。 生物学的な探究の方法を身に付けさせる。 生物や生物現象と日常生活や社会とのかかわりを考えることができるようにする。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験の技能・表現	知識・理解
	生物的事物・現象に関心、探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、態度を身につけようとする。	生物的事物・現象に問題を見出し、事象を実証的、論理的に考え、分析し、また総合的に考え、科学的に判断できる。	自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及び考えを的確に表現することができる。	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 定期考査、提出物、授業態度			
教科書・教材等	第一学習社『高等学校 生物』 第一学習社『セミナー 生物基礎＋生物』			
授業形態	講義、3～4名のグループワーク、4～5名のグループで実験・観察			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	-	-	-	-
	5				
	6				
	7				
	8				
2	9	生命現象と物質	細胞と分子 生体物質と細胞・細胞膜を介した物質の移動 生命現象とタンパク質	12	タンパク質の働き，細胞の構造とその働きを理解すること。
	10		代謝 代謝とエネルギー代謝・同化・窒素同化・異化	14	代謝について理解し，分子レベルでとらえることができる。
	11		遺伝情報の発現 遺伝情報とその発現・遺伝情報の発現調節 バイオテクノロジー	12	生命現象を支える核酸の働きから，遺伝情報の発現を理解することができる。
	12				
3	1	生殖と発生	有性生殖 減数分裂と受精・遺伝子と染色体	10	生物の生殖や発生について観察，実験などを通して探究し，動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。
	2		動物の発生 配偶子形成と受精・初期発生の過程 細胞の分化と形態形成・器官の形成と細胞の死	22	
	3		植物の発生 配偶子形成と胚発生		

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
保健体育	体育	2	高校2年(男子)	必修
科目の目標	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 ③運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。			
学習内容の概要	体育分野の内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されている。運動に関する領域は、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「球技」、「武道」及び「ダンス」であり、知識に関する領域は、「体育理論」である。また、能率的で安全な集団としての行動の仕方(集団行動)を各領域において適切に行う。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・授業に対する姿勢(忘れ物・態度・服装・頭髪など) ・欠席数・遅刻数・見学数 ・定期考査、各競技の技能テストの点数			
教科書、教材	アクティブスポーツ(大修館)、各単元に応じた必要な用具			
授業形態	男女別			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	体づくり運動	オリエンテーション、軽スポーツ、集団行動、補強運動、新体力テスト	7	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を図る
	5	球技 ベースボール型 [ソフトボール]	キャッチボール、攻撃の練習、守備の練習、試合	5	・基本的なルールを理解し、安全に留意した練習・試合を展開する。
	6	球技 ネット型 [バレーボール]	パス、サーブ、スパイク、ブロック、三段攻撃、試合	8	・三段攻撃の各ポジションの役割を理解する ・予測して次のプレーを判断できるようにする
	7	球技 ゴール型 [サッカー]	パス練習、ドリブル練習、シュート練習、試合	6	・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入から攻防などを展開すること。
2	9	球技 ネット型 [バドミントン]	ラケットの持ち方、各ショットの練習、試合	6	・状況に応じたボール操作と安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。
	10	球技 ゴール型 [ハンドボール]	パス、キャッチ等の基礎的なことからゲーム展開	8	・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。 ・基本的なルールを理解し、安全に留意した練習・試合を展開すること。
	11	武道 [空手]	礼法、基本動作、型の練習	6	・主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についてできるようにする。
		体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	2	・スポーツの技術と技能、体力トレーニング等を理解できるようにする。
	12	球技 ネット型 [卓球]	ラケットの持ち方、各ショットの練習、試合	10	・ルールを理解し試合ができる。 ・状況に応じたラケット操作と安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。
3	1	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	2	・スポーツの技術と技能、体力トレーニング等を理解できるようにする。
	2	器械運動	マット運動 とび箱	8	・技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて演技することができるようにする。
	3	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	2	・スポーツの技術と技能、体力トレーニング等を理解できるようにする。

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
保健体育	体育	2	高校2年(女子)	必修
科目の目標	①運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 ②運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 ③運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。			
学習内容の概要	体育分野の内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されている。運動に関する領域は、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「球技」、「武道」及び「ダンス」であり、知識に関する領域は、「体育理論」である。また、能率的で安全な集団としての行動の仕方(集団行動)を各領域において適切に行う。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
	自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとする。また、健康・安全に留意して運動をしようとする。	運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力に適した課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能を身に付けている。	運動の特性と学び方、安全の確保の仕方、運動の心身にわたる効果に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・授業に対する姿勢(忘れ物・態度・服装・頭髪など) ・欠席数・遅刻数・見学数 ・定期考査、各競技の技能テストの点数			
教科書、教材	アクティブスポーツ2016(大修館)、各単元に応じた必要な用具			
授業形態	男女別			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	体づくり運動	・オリエンテーション(軽スポーツ、集団行動、補強運動) ・新体力テスト	4	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい健康の保持増進や体力の向上を図る
	5	球技 ゴール型 [ハンドボール]	・パス、キャッチ等の基礎的なことからゲーム展開 ・数的有利の状況を理解する(動画を撮影してチームで戦術を考える)	10	・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開する。 ・基本的なルールを理解し、安全に留意した練習・試合を展開する。
	6				
	7	球技・バレーボール	・パス、サーブ、スパイク、ブロック、三段攻撃、ゲームでゲームを振り返り改善点をみつける(動画撮影)。 ・チーム	8	・三段攻撃の各ポジションの役割を理解する ・予測して次のプレーを判断できるようにする
2	9	球技・ソフトボール	・キャッチボール、攻撃の練習、守備の練習 ・ゲーム	6	・打撃、捕球、送球などの用具操作や走者と連携した打撃による攻撃とその守備などのチームメイトと連携した動きで、ゲーム展開する。
	10	球技 ネット型 [バドミントン]	・ラケットの持ち方、各ショットの練習 ・ゲーム	8	・状況に応じたラケット操作と安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。
		体育理論	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	2	・スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を理解できるようにする。
	11	武道 [空手]	・礼法 作、型の練習 ・基本動	8	・主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようということ。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についてできるようにする。
	12	陸上	・長距離走 3000メートル	6	・疲れにくいフォームと一定のペース、全身持久力と筋持久力などの体力をみにつける。
3	1	卓球	・ルールの理解、サービス、ラリー ・ゲーム	8	・ルールを理解し試合ができる。 ・状況に応じたラケット操作と安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。
	2	体育理論	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	2	・スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を理解できるようにする。
		器械運動	・マット運動 とび箱	6	・技がよりよくできる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技を高めて演技することができるようにする。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を理解できるようにする。
	3	体育理論	スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	2	

教科名		科目名	単位数	対象学年	履修形態
保健体育		保健	1	高校2年	必修
科目の目標		個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。			
学習内容の概要		・生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。 ・社会生活と健康 社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解	
		生涯を通じる健康・社会生活と健康について、自分の経験や仲間との意見交換などをもとに話し合う活動に、意欲的に取り組もうとすることができる。	生涯を通じる健康・社会生活と健康について、自分の経験や仲間との意見交換などをもとに、考えることができる。	生涯を通じる健康・社会生活と健康について、理解し、説明できるようにする。	
評価の方法		以下の事項を総合的に判断して評価する。 ・定期考査 ・授業中での発問に対する考え方、発表 ・課題提出			
教科書・教材等		最新高等保健体育(大修館)・保健体育ノート(大修館)			
授業形態		一斉、男女合同			
年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1	4	生涯を通じる健康	思春期と健康	2	思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面、行動面が変化することについて理解できる。
	5		結婚生活と健康	3	健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場からできるようにする。
	6		加齢と健康	3	加齢に伴う心身の変化について、形態面及び機能面から理解できるようにする。
	7		我が国の保健・医療制度	3	我が国には、人々の健康を守るための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから保健に関する、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることを理解できるようにする。
	8				
2	9	社会生活と健康	地域の保健・医療機関の活用	3	生涯を通じて健康を保障するには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所、保健センター、病院や診療所などの医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることを理解できるようにする。
	10		環境の汚染と健康	4	人間の生活や産業活動に伴う大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などは、人々の健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあることを理解できるようにする。
	11		環境と健康にかかわる対策、健康保健にかかわる活動	4	下水道の整備などの廃棄物処理などの環境衛生活動は、自然や学校、地域などの社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解できるようにする。
	12		食品保健にかかわる活動	4	食品の安全性の確保は、食品衛生法などに基づいて行われており、食品の製造・加工・保存・流通などの各段階での適切な管理が重要であることを理解できるようにする。
3	1	社会生活と健康	健康の保持増進のための環境と食品の保健	4	環境と食品の保健にかかわる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報公開、活用するなど行政・生産者・製造者などが、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて理解できるようにする。
	2		労働災害と健康	3	労働による損害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことを理解できるようにする。
	3		働く人の健康の保持増進	2	働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安産管理と共に、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
英語	コミュニケーション英語Ⅱ	5	高校2年	必修

科目の目標	①やや複雑な構文の英文を読み取り、筆者の意図を読み取る。 ②文章の構造を理解し、論理展開の流れを身につける。 ③自ら論理的な文章を組み立て、正確で自然な英文で相手に伝えられるようにする。			
学習内容の概要	英文の構造を理解するため、英文の意味のまとまりを把握し、文型を区別する。 英文を意味のまとまりで口に出すことで自然な英語を伝えられるようにする。 十分な語彙を身につけ、筋道のたった簡単な説明文を表す練習をする。			
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心 を持ち、積極的な態度 で聞くこと、読むこと、話す こと、書くことの言語活動 に参加しているか。	外国語表現の能力 (話すこと・読むこと・書くこと) 様々な話題に関して、情 報や考えなど相手に伝え ようとする事柄を英語で話 したり、書いたりして適切 に表現することができる か。	外国語理解の能力 様々な話題に関して、情 報や考え方など、相手が 伝えようとする事柄を的確 に理解することができる か。また聞き手に伝わるよ うに適切に音読することが できるか。	言語や文化についての 知識・理解 様々な話題についての学 習を通して、言語やその 運用についての知識を身 につけるとともに、その背 景にある文化などを理解 しているか。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 授業への参加状況、課題の取り組み状況、インタビュー・テスト(音読、口頭要約、対話など)、小テスト(単元 テスト、テストなど)、定期考査(中間考査、期末考査)			
教科書・教材等	Genious English CommunicationⅡ(大修館書店) 精選 英文法・語法問題700(いっすな書店)、NextStage(桐原書店) DataBase4500(桐原書店)、キクタンBasic(アルク)			
授業形態	習熟度別2クラス編成			

年間学習計画					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント・評価等
1学期	4	オリエンテーション		1	
	5	New CrownⅡ Lesson1-2	Itの用法(It seems that～)ほか 受動態・動名詞	35	文構造の理解 品詞の分類 異文化理解
	6	Lesson3	複合関係詞	10	科学技術の進歩を知る
	7	Read On! 3	関係副詞		英文の構造を理解する
	8	Lesson4	仮定法	11	世界の紛争について知り、 平和への方法を考える
		Read On! 4	辞書の利用法		
2学期	9	Lesson5 Read On! 5	無生物主語、図書の利用 Itの用法(強調構文)	10	日本文学の背景を英文で知る
	10	Lesson6 Read On! 6	動名詞[having+過去分詞] 不定詞[to have +過去分詞]	10	世界遺産を通じて日本を知る
	11	Lesson7 Read On! 7	関係代名詞 語順、同格	13	芸術の世界に触れる
	12	Lesson8 Read On! 8	There構文 関係代名詞(二重限定)	16	脳科学を通じ、動物の世界を知る
3学期	1	Lesson9	倒置、図書の利用	11	自由と倫理について考える
	2	Read On! 9	不定詞[独立不定詞]、省略		
	3	ディベート	ディベート 図書利用	15	英語でディベートをすることにより 英語での説得能力を培う。